



放射能との向き合い方を考える 2回連載 (前編)

消費者の関心が 測定に継続に。



Profile

小豆川 勝見さん
(しょうずがわ・かつみ)

1979年生まれ。東京大学大学院 総合文化研究科助教。東京都世田谷区教育委員会の放射線アドバイザー。放射線を分かりやすく子どもに伝える講演や学習会を行っている。著書に『みんなの放射線測定入門』(岩波科学ライブラリー)など。

福島第一原発事故直後から放射性物質の測定を続けてきた東京大学大学院助教の小豆川勝見さん。原発事故から時間がたつなかで、放射能問題とどう向き合っていけばいいのか、お話をうかがいました。1回目は放射能測定の継続について考えます。

検査は縮小せず、継続することが大切

「農業などと同様に、放射性物質の測定がきちんとなされていることが、不安なく食材を利用できることにつながります」。そう話すのは東京大学助教の小豆川勝見さん。研究者として福島第一原発事故から放出された放射性物質の検査・測定と研究を続けています。

「東日本の17都県を中心に地方自治体では、ガイドラインに基づき主要な農産物や食品の放射能検査を行い、インターネットで公表しています。ただし、自治体の場合は、検査量が多いので、精度よりも数をこなして『国で定めた基準を守る』ことが優先。まず簡易検査器で測定し、高い数値が出ればゲルマニウム半導体検出器にかけることが一般的です」

最近では放射性物質の検出が減ってきたことを理由に検査縮小の動きがありますが、「効率を上げるための改善はすべきでも、検査自体は決して止めてはいけません。行政にきちんとした検査を続けてもらうには、多くの方が関心を持ち続けることが重要」と話します。

現在、一般流通している生産物から国の基準値を超えた検出はほとんどありません。「事故から時間が経ち、『もう気にしていない』という人もいるかもしれませんが、放射性物質は簡単に消えてなくなるものではありません。継続して検査しデータを積み上げていくことが安心を支えるのです。『無農薬』とか『遺伝子組換えではありません』と表示されている食品のように、放射能検査がもっとわかりやすい形で公表されるといいなと思います」

個人で採取する山菜や自家消費野菜の測定

放射性物質の検査データを積み重ねてきたことで、「この場所で栽培した、この作物なら、このくらいの放射性物質が含まれる」という予測が、かなりの程度できるようになってきたと小豆川さんは言います。しかし、こうした検査にも『抜け』があると指摘します。

「その一例が個人的にとってきた山菜や野生のキノコです。今春には、個人売買用のサイトで販売されていた山菜に基準値を超える放射性物質が含まれていたというニュースがありました。個人売買の山菜やキノコは測定がされていないことがあります。また、山中は放射線量のばらつきが大きく、とれる場所も一定ではないため、どのくらい放射性物質が含まれているのか予測がむずかしいのです。

「また、自家消費野菜も注意が必要です。福島やその周辺県で流通している生産物については、過去に一度は測定や検査を受けていると思われ、そこから放射性物質の状況について予測できますが、自家消費野菜は『自分たちで食べるだけだから』と測定をしていない場合もある。『もしかしたら』と考えて、測定所に持ち込むとか行政に確認するなどの意識をもっていただければと思います」

(次回は、原発事故以来、小中学生向けに小豆川さんが続けている学習会の話題から、放射能について知ることや伝えることの意味について考えます)

食品の放射能検査は機材で精度に差があります



NaIシンチレーション スペクトロメータ

安価で取り扱いやすく、民間や行政で主に使用される簡易的な測定器。消費者庁は20Bq/kgを下限に設定(写真左)

ゲルマニウム半導体検出器

高価で冷却用の液体窒素を必要とし、取り扱いも容易でない。1Bq/kgなど低レベルまでの精密な測定が可能。パルシステムは2台所有(写真右)



パルシステムは厳しい基準で放射能検査を実施し、これからも組合員の安全安心に継続して取り組みます

- 原発事故直後から国よりも厳しい自主基準(独自ガイドライン)で検査。たとえば、パルシステムの自主基準で乳製品、米は**10Bq/kg**、青果類、魚介類は**25Bq/kg**などしていますが、国の基準では、それらはすべて「一般食品」の分類に含まれ、一律に**100Bq/kg**となっています。
- 精度の高い「ゲルマニウム半導体検出器」で測定。
- 生鮮品だけではなくパルシステムで取り扱っている加工食品も検査。
- 検査の結果は『放射能レポート』やインターネットで公表。

これまで毎年3000件以上の検査を行い、近年の放射能の検出は限られた一部の食品となっています。これからも安全安心な食品をお届けしていきます。

放射能検査状況について

2020年度の検査数(カッコ内は検出件数)
2020年9月16日現在

総計: **822**(14) 不検出率: **98.3%**

2019年度の検査数 総計3025(30) 不検出率99.0%

青果	250(2)	2019年度は伊予柑(3.1Bq/kg)、2020年度はれんこん(7.8Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	17(12)	2019年度は冷凍産直原木しいたけ(カット)(5.8Bq/kg)、2020年度は生しいたけ(5.0~10Bq/kg)、岩手県産乾しいたけ(5.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	17(0)	2019年度に続き、9月16日現在で放射能の検出はありません。
米・米飯類	5(0)	2020年産の検査はJAきみつ(千葉県)よりスタート。4産地4検体の玄米で検査し、不検出でした。今後も順次、米の検査を行っています。

牛乳、肉、卵	18(0)	産地ごとに定期的に検査しています。2019年度に続き、9月16日現在で放射能の検出はありません。
魚介類	43(0)	2019年度に続き、9月16日現在で放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	25(0)	2019年度に続き、9月16日現在で放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	85(0)	2019年度に続き、9月16日現在で放射能の検出はありません。
その他加工食品	362(0)	2019年度は茨城の紅はるか干しいも(3.7Bq/kg)、ほしいも(3.6Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。



- 週次の「放射能関係のお知らせ」はインターネットに掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・
パルシステム茨城 栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟ときめき
パルシステム
問合せセンター ☎ **0120-868-014** 月～金曜日:9時～20時 土曜日:9時～17時
※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨 甲斐センター ☎0120-28-5891 高崎センター ☎0120-60-5118
西桂センター ☎0120-32-1061 渋川センター ☎0120-36-3315
一宮センター ☎0120-21-9898 東毛センター ☎0120-63-3735
※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。